

鷹取山自然観察会会報

2018. 9. 9 NO. 21

鷹取山の野鳥調査について—2017 年 12 月～2018 年 5 月の調査報告—

日本ではこれまで 500 種以上の鳥類が確認されていて、鳥類は自然の状況を知るためのよい指標にもなっています。当会では 2014 年から調査を開始し、比較的観察しやすい冬から春の繁殖期まで調査を行っていて、これまでの結果は会報 8 号、13 号、17 号で報告しています。今回は、2017 年 12 月～2018 年 5 月までの調査結果を報告します。

野鳥は他の動物に比べて移動距離が大きく、夏鳥、冬鳥など季節によって移動を繰り返しているため、地域の環境を把握するためには継続的な調査が必要だと思います。

また、野鳥は山林、草原、田畑、水辺などですみ分けを行っています。鷹取山でよく見られるシジュウカラ、ヤマガラ、コゲラなどは山林を好み、ホオジロ、ツグミなどは草原を好むようです。

横須賀市教育情報センターの Web では、三浦半島で見られる野鳥として 112 種を掲載していて、内 50 種ほどは水辺の鳥であるため、60 種位が山や野原で見られることになります。

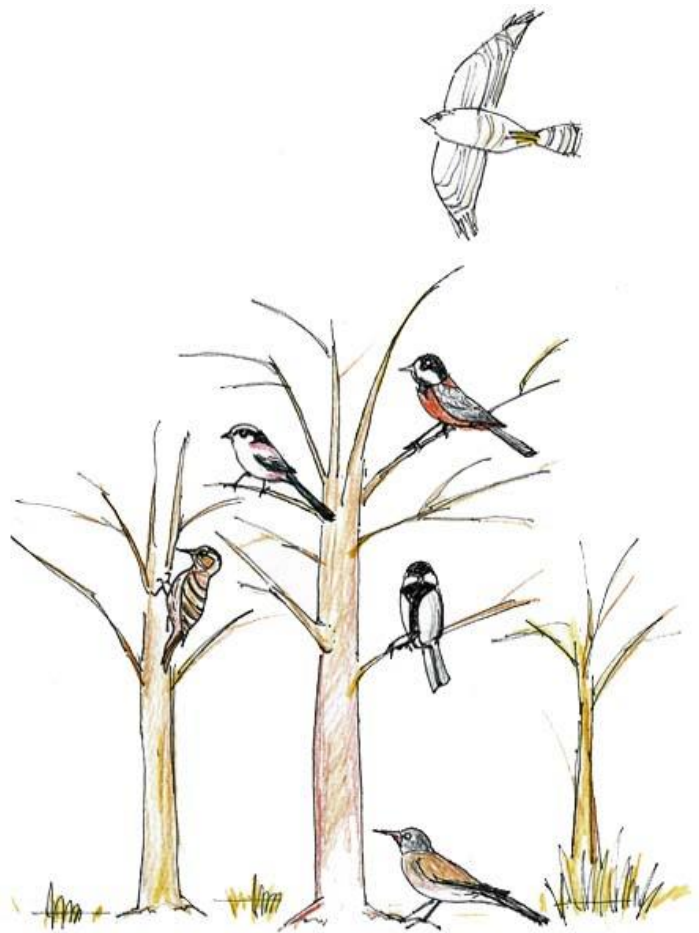
また、モニタリングサイト 1000 里地調査^{注1)}では、表 1 のとおり生息場所ごとに野鳥の指標種 52 種を取り上げています。これらの資料を参考にして報告します。

1. 調査方法

調査は環境省自然環境局及び日本自然保護協会における「モニタリングサイト 1000 里地調査マニュアル」に準じて行いました。調査ルートは植生の違う 6 区間（2016 年までは 4 区間）に分け調査しました。調査頻度は月 2 回第 1、3 金曜日に行い、調査ルートを歩きながら、目撃、鳴き声（地鳴き、さえずり）で種を判別し記録しました。

2. 調査結果

今回は、月 2 回計 11 回の調査を行いました。調査日によっては気象条件などにより、出現する数に違いがありました。2014～2017 年の年別の調査結果を表 2 に示しています。2017 年は全期間を通して 36 種が記録できました。また、2014 年から現在まで、記録できたものは累積で 43 種になりました。



2017 年の調査期間を通して数が多い鳥はメジロ、ヒヨドリ、ハシブトガラス、ムクドリ、コゲラ、スズメ、アオジ、エナガ、トビ、コジュケイの順であり、これらはすべて留鳥でした。

2014 年～2016 年との比較では、キセキレイ、トラツグミ、チョウゲンボウ、ハヤブサが 2017 年に初めて観察できました。また、ヒヨドリ、メジロは 2016 年と比較して観察数が多かった。一方、2016 年までに観察したオオタカ、アカハラ、キビタキなどは 2017 年には観察できなかった。

2017 年の調査では 2016 年に引き続き猛禽類のノスリを観測しました。神武寺、池子にはタカ類の営巣も確認されていてこちらに飛んできたものと思われます。

表1：モニタリングサイト1000里地調査の指標種52種とその渡り・ハビタットタイプ区分

渡りタイプ	ハビタットタイプ	種名
留鳥(22種)	森林(7)	アオゲラ、ウグイス、カケス、キセキレイ、コゲラ、エナガ、ヤマガラ
	草地、畑地(4)	ムクドリ、ハシボソガラス、ヒバリ、カワラヒワ
	水田、湿原(6)	コサギ、セッカ、ダイサギ、バン、アオサギ、ケリ
	複合(5)	オオタカ、モズ、ノスリ、ホオジロ、キジ
漂鳥(4種)	森林(3)	ウソ、ルリビタキ、アオジ
	草地、畑地(1)	ニューナイズメ
国外移動 (夏鳥、15種)	森林(7)	ヤブサメ、ホトトギス、サンショウクイ、オオルリ、センダイムシクイ、キビタキ、コサメビタキ
	草地、畑地(2)	コムドリ、ノビタキ
	水田、湿原(3)	アマサギ、チュウサギ、オオヨシキリ
	複合(3)	カッコウ、ツバメ、サシバ
国外移動 (冬鳥、11種)	森林(2)	ミヤマホオジロ、マヒワ
	草地、畑地(3)	ジョウビタキ、シメ、ツグミ
	水田、湿原(2)	タゲリ、タシギ
	複合(4)	カシラダカ、アトリ、シロハラ、ベニマシコ

注 キビタキなどの網掛け文字の種は鷹取山で確認した種である。

表2：モニタリングサイト1000里地調査との比較

	当会の方法	モニ1000里地
調査コース	6区間3.5km	1km (新たに区間設定)
調査期間・回数	12月初旬～5月初旬	繁殖期 5月中旬～6月下旬 6回 (但し、1日2回可能) 越冬期 12月中旬～2月中旬 6回 (但し、1日2回可能)
調査時間帯	午前10時～12時半	繁殖期(原則は日の出～午前8時) 6時～8時頃 越冬期(原則は午前中) 7時30分～9時頃

3. モニタリングサイト1000里地調査

鷹取山自然観察会では、鷹取山周辺の自然を把握するため、モニタリングサイト1000里地調査(モニ1000里地調査)(注1)にサイト登録して植物相、蝶類を行っていますが鳥類調査については、モニ1000里地調査とは別の方法により行ってきました。モニ1000里地調査は早朝に行うことがネックになっていましたが、全国

的に行われている方法で行うことを検討したいと考えています。

当会で現在行っている方法とモニ1000里地との比較をすると表2のようになっています。モニ1000里地では区間を1km程度と短く、調査頻度が6回となっています。ただし、1日1往復～1往復半まで可能としています。従って1日1往復やると調査は3日間です。調査時間帯は繁殖期では日の出からとなります。繁殖期は鳥の活動も活発であり、この時間帯での調査を行うことで地域の生息状況を正確に把握できるとしています。越冬期は特に指定はありませんが午前中となっています。5月中旬～6月下旬の3日間を早起きしてみませんか。

今後、鳥類調査の仲間と相談していきたいと思います。

4. その他

2年前から月1回を月2回の調査に変更し、12月から翌年5月まで調査を行いました。冬の間は多くの鳥はさえずりよりも地鳴きが多く、判別がしづらいことが多かった。たとえば、ウグイスのさえずりは「ホーホケキョ」と誰でもが知っていますが、冬の地鳴きは「チャッ、チャッ」と鳴いています。シジウカラのさえずりは「ツピ、ツピ、ツピ」ですが、地鳴きは「ジュー、ジ

表3 2014年～2017の調査結果

	科 名	種名	2014 年	2015 年	2016 年	2017 年
1	キジ目キジ科	コジュケイ	8(4/6)	8(4/6)	10(6/10)	24(7/11)
2	キツツキ目 キツツキ科	アオゲラ	0	1(1/6)	2(2/10)	3(2/11)
3		アカゲラ?	0	1(1/6)	0	0
4		コゲラ	9(5/6)	15(6/6)	21(8/10)	38(10/11)
5	スズメ目アトリ科	アカウソ	1(1/6)	0	0	0
6		ウソ	10(2/6)	2(1/6)	28(4/10)	12(3/11)
7		シメ	0	0	5(2/10)	4(3/11)
8		カワラヒワ	2(1/6)	0	5(3/10)	2(1/11)
9	スズメ目ウグイス科	ウグイス	13(5/6)	29(5/6)	31(9/10)	61(9/11)
10	スズメ目エナガ科	エナガ	3(1/6)	14(3/6)	11(4/10)	32(6/11)
11	スズメ目カラス科	ハシボトガラス	15(5/6)	10(5/6)	34(8/10)	58(10/11)
12		ハシボンガラス	3(1/6)	8(2/6)	5(2/10)	11(2/11)
13	スズメ目 シジュウカラ科	シジュウカラ	14(6/6)	18(6/6)	25(7/10)	68(11/11)
14		ヤマガラ	1(1/6)	4(1/6)	8(3/10)	8(3/11)
15	スズメ目スズメ科	スズメ	41(6/6)	34(6/6)	87(10/10)	39(8/11)
16	スズメ目セキレイ科	ハクセキレイ	0	4(2/6)	6(4/10)	12(6/11)
17		キセキレイ	0	0	0	1(1/11)
18	スズメ目ツバメ科	ツバメ	0	1(1/6)	6(2/10)	19(3/11)
19		イワツバメ	0	0	3(1/10)	0
20	スズメ目ヒヨドリ科	ヒヨドリ	36(6/6)	66(6/6)	74(10/10)	162(10/11)
21	スズメ目ホオジロ科	アオジ	10(4/6)	2(2/6)	17(5/10)	31(7/11)
22		ホオジロ	2(2/6)	1(1/6)	15(7/10)	9(6/11)
24	スズメ目ムクドリ科	ムクドリ	8(3/6)	0	22(5/10)	43(3/11)
25	スズメ目メジロ科	メジロ	20(5/6)	42(5/6)	31(8/10)	169(11/11)
26	スズメ目チメドリ科	ガビチョウ	1(1/6)	7(3/6)	6(4/10)	16(6/11)
27	スズメ目ツグミ科	アカハラ	0	2(2/6)	0	0
28		イノヒヨドリ	0	1(1/6)	0	1(1/11)
29		シロハラ	3(3/6)	0	2(2/10)	3(3/11)
30		ツグミ	3(3/6)	0	4(2/10)	7(3/11)
31		トラツグミ	0	0	0	1(1/11)
-		大型ツグミ類	0	2(2/6)	1(1/10)	0
32	スズメ目ヒタキ科	キビタキ	0	1(1/6)	0	0
33		ジョウビタキ	1(1/6)	1(1/6)	3(2/10)	6(4/11)
34	スズメ目モズ科	モズ	1(1/6)	3(2/6)	0	4(4/11)
35	スズメ目レンジャク科	ヒレンジャク	13(1/6)	0	0	1(1/11)
36	タカ目タカ科	オオタカ	0	1(1/6)	0	0
37		トビ	5(3/6)	8(4/6)	29(10/10)	29(10/11)
38		ノスリ	0	1(1/6)	3(2/10)	1(1/11)
39	ハト目ハト科	キジハト	7(3/6)	4(3/6)	10(6/10)	9(3/11)
40		ドハト	3(2/6)	2(2/6)	7(1/10)	9(3/11)
41	ハヤブサ目ハヤブサ科	チョウゲンボウ	0	0	0	1(1/11)
42		ハヤブサ	0	0	0	1(1/11)
43	カッコー目カッコー科	ホトギス	0	0	0	1(1/11)
		44	233	289	512	896
		種数	26	30	30	36

注 カッコ内数値 (n/10) は、種の確認回数/観察回数

ユク」などと鳴きます。これまでも見逃した野鳥もあったかもしれません。

我々自然観察会では、野鳥の繁殖に影響しないようマナーを守り調査を行っています。2018年は12月から野鳥調査を再開する予定です。

注1) モニタリングサイト1000 里地調査（モニ1000 里地調査）

モニ1000 里地調査は、環境省生物多様性センターが中心となって全国的な生態系の変化を把握することを目的に行っています。調査は、市民が調査項目（植物相、野鳥、蝶類、カエル類、ホタル、ほ乳

2017年調査に参加した人（鷹取山自然観察会）

本多久男、中村紀雄、三科清高、高橋和子、島村健二、板垣加代子、金子龍次、小池順子、竹之下香苗、原秀子、伊沢昭司、市川寛、北村悦子（順不同、敬称略）

類など9項目）を選択してボランティアで調査を実施することにより、全国的な生態系の変化を把握しています。現在全国180ヶ所の一般サイトが登録されていて、神奈川県では21か所、横須賀市では3か所で5年間を一区切りとして調査が行われています。

樹木板の設置について（報告）

私たちが行っている植物相調査では、鷹取山周辺に200種近い樹木を確認しています。このような多様な樹木について、散歩で歩かれる方やハイカーの方にも関心を持ってもらうために樹木板を設置しています。

鷹取山ではコナラ、クヌギ、イヌシデ、イタヤカエデ、オオシマザクラなど落葉樹やタブノキ、シロダモ、シイノキ、アカガシ、ウラジロガシ、アラカシなどの常緑樹、カマツカ、ウツギ、イボタノキ、ムラサキシキブ、ガマズミ、イヌビワなどの中低木が混在して里山を形成しています。

私たちの会が鷹取山に樹木板の設置したのは、2013年2月で今年は5回目です。今年は6月29日に樹木板を設置しました。

今回はシュロ縄の交換と痛んだ樹木板の交換、新たな樹木板の設置を行いました。

会員10名で杉板の樹木名等が記入したプレートをシュロ縄で木にとめていきした。崖地や坂道などもあり苦労しましたが、2時間余り作業を行いました。

樹木板は木製でペンキにより種名、特徴、科名を記載してあります。今年はコウヤボウキ、ノコンギク、シロヨメナ、カラスノゴマ、ホトトギス、カントウタンポポなどの草本類にもラミネートのプレートを設置しました。樹木の名前を覚えることが目的ではないですが、自然と触れ合うきっかけとなれば幸いです。

樹木板を設置してから、多くの方に樹木の名前や、花の咲く時期が分かって良かったなどご意見を頂いています。樹木板の設置に参加された方は本当にご苦労様でした。



鷹取山の林内温度について

今年は、関東地方の梅雨が6月29日と例年に比べ3週間も早く開けて、その後は35℃を超える日が続き、テレビ・新聞は熱中症対策を連日報道していました。

三浦半島は三方を海に囲まれ、緑地率も高いことから神奈川県の内陸部に比べて温度は高くないようです。また、森林内では住宅地と比較して夏期では温度が低く保たれているといわれています。原因は森林の中では太陽光線の遮断、樹木の蒸散作用などによって、日中では林外より2～3℃低いという資料もあります。

鷹取山の林内がどのくらいの温度か確かめるため、8月15日に簡易な温湿度計を持って調べました。ただし、気温は原則日陰で測定しました。

調査結果及び調査コースは下図のとおりです。京急田浦駅 9:30 スタートして神武寺駅 12:01 到着でした。調査地点は、①京急田浦駅16号歩道、②、③、④浜見台～鷹取山への尾根道、⑤鷹取山公園東屋、⑥鷹取山～神武寺までの尾根道、⑦神武寺、⑧神武寺裏参道、⑨老人ホ

ームせせらぎ～住宅地、⑩神武寺駅です。林外は①、⑤、⑨、⑩です。林外では神武寺駅ホームが33.9℃と高く、その他は31.9～32.6℃でした。鷹取山の林内では、29.3～30.5℃であり、林外と比べると1.8～4.5℃程度低くなっていました。

林の中は、住宅地などと比べると日陰も多く温度は低く、風が吹くと涼しさを感じます。ただ、林内は湿度が高く、ムシムシする感じもあります。今回湿度も図りましたが、林外と比べ5～20%ほど高くなっていました。山へ入るときは、水分補給をしっかりとることが最善と思います。

参考として、当日の横須賀消防局の気温は、09時 31.1℃、10時 30.8℃、11時 31.6℃、12時 32.2℃でした。



セミの抜け殻調査について—2018 年調査報告

セミは夏の風物詩で、鷹取山周辺では例年、7月上旬からニイニゼミが鳴き始め、梅雨が明ける頃にはアブラゼミ、ミンミンゼミが大きな鳴き声で鳴いています。セミの生活史は夏に受精して雌は枯れ木に卵を産み付けます。卵から孵った幼虫は地中で脱皮を繰り返し大きくなっていきます。アブラゼミは5年ほど地中で過ごし、最終令の幼虫は、生息場所からあまり移動せずに夏の夜地上に出て来て成虫となり、1週間から1か月程、交尾の相手を見つけるため雄は大きな鳴き声を出すことになります。セミは樹林性の昆虫であり、セミの抜け殻調査

は全国的に行われていて、その結果は自然環境のバロメーターとなっています。2018 年も、鷹取山周辺で3年目となるセミの抜け殻調査を行ったので報告します。

1. 調査方法

7月27日と8月26日の2回、鷹取山の観察路を浜見台～鷹取山公園まで歩きながら木や草に付いている抜け殻を採取して調べました（調査区間図参照）。種の同定は会報13号（7頁）の方法により確認しました。

2. 調査結果

調査結果は表1、表2のとおりでした。昨年7月末の1回目の調査では、ニイニゼミが83.3%で圧倒的多数でしたが、今年はニイニゼミが52.1%で、アブラゼミが26.7%、ミンミンゼミが16.4%、ツクツクボウシが4.8%でした。今年は、セミの羽化が昨年より早かったと思われます。一方、8月末の2回目の調査では、ニイニゼミは見つけることができず、アブラゼミが40.0%、ミンミンゼミが51.7%、ツクツクボウシが6.7%、ヒグラシが1.7%となりました。ヒグラシは、杉林の周辺のみで採取されました。この違いは、セミの種類による生活史の違いが反映された結果であると考えられます（生活史比較表参照）。また、抜け殻は採取されなくてもクマゼミの鳴き声は毎年聞こえますので、数年後には、鷹取山でもクマゼミが羽化し、抜け殻が見られるようになるかもしれません。3年間の調査結果全体を見ると、鷹取山のセミは、7月はニイニゼミ、8月はアブラゼミとミンミンゼミが優占種となっています。

なお、今年の夏、特に8月末の2回目の調査では、台風などの影響で風の強い日が多かったので、風に飛ばされてしまったセミの抜け殻も多数あったと思われます。

3. その他

全国的には「セミの抜け殻しらべ市民ネット」や日本自然保護協会などで調査が行われています。市民ネットなどの調査では調査範囲を決めて毎年3回程度継続的に続けることとなっています。鷹取山でも継続的に調査ができればセミの変化がわかると思っています。クマゼミは、昔は城ヶ島が北限とされていましたが、近年鷹取山及びその周辺でも普通に鳴き声が聞こえます。セミは幼虫期間が長いので、抜け殻調査には、複数年に及ぶ環境の変化が反映されると考えられます。

2018年調査に参加した人（鷹取山自然観察会会員）
本多久男、市川寛、島村健二、高橋和子、伊沢昭司、
竹之下香苗、三科清高（順不同）

調査区間図



表1 セミの抜け殻調査結果（2018年 鷹取山で鳴き声が聞こえる6種）

種類 調査区間→	2018/07/27					2018/08/26					2018 計				
	A	D	E	F	計(%)	A	D	E	F	計(%)	A	D	E	F	計(%)
アブラゼミ	24	12	3		39(26.7)	18	6			24(40.0)	42	18	3		63(30.6)
ミンミンゼミ	19	5			24(16.4)	21	10			31(51.7)	40	15			55(26.7)
ニイニゼミ	1	56	5	14	76(52.1)						1	56	5	14	76(36.9)
ツクツクボウシ		3	3	1	7(4.8)	2	1		1	4(6.7)	2	4	3	2	11(5.3)
ヒグラシ							1			1(1.7)		1			1(0.5)
クマゼミ															
計	44	76	11	15	146(100)	41	18		1	60(100)	85	94	11	16	206(100)

表2 セミの抜け殻調査結果（2016年～2018年）

年	2016年	2017年			2018年		
月/日	8/16	7/28	8/25	計(%)	7/27	8/26	計(%)
アブラゼミ	51(59.7)	6(7.7)	57(55.3)	63(34.8)	39(26.7)	24(40.0)	63(30.6)
ミンミンゼミ	26(28.9)	1(1.3)	35(34.0)	36(19.9)	24(16.4)	31(51.7)	55(26.7)
ニイニイゼミ	4(4.4)	65(83.3)	1(1.0)	66(36.5)	76(52.1)		76(36.9)
ツクツクボウシ	8(8.9)		8(7.8)	8(4.4)	7(4.8)	4(6.7)	11(5.3)
ヒグラシ	1(1.1)	6(7.7)	2(1.9)	8(4.4)		1(1.7)	1(0.5)
クマゼミ							
計	90(100)	78(100)	103(100)	181(100)	146(100)	60(100)	206(100)

() 内数値はパーセント

セミの生活史比較表（鷹取山で鳴き声が聞こえる6種）

種類	孵化型・時期	成虫出現時期	幼虫期間の目安	好きな木
アブラゼミ	翌年孵化型・梅雨時	7月中旬～9月下旬	4～5年(主に5年)	サクラ、ケヤキなど
ミンミンゼミ	翌年孵化型・梅雨時	7月中旬～10月上旬	2～4年(主に3年)	ケヤキ、サクラ
ニイニイゼミ	同年孵化型・秋雨時	6月下旬～9月中旬	4～5年(主に4年)	サクラ、ケヤキなど
ツクツクボウシ	翌年孵化型・梅雨時	7月下旬～10月上旬	1～2年(主に2年)	サクラ、ケヤキなど
ヒグラシ	同年孵化型・秋雨時	7月上旬～9月上旬	3～4年(主に4年)	スギ、ヒノキ
クマゼミ	翌年孵化型・梅雨時	7月中旬～9月下旬	4～5年(主に5年)	センダン、ケヤキなど

※ 幼虫期間については不明な点が多いため、目安とした。

今後の予定

1. 巣箱の掛け替え

シジュウカラ、ヤマガラは巣箱をよく利用してくれる野鳥でもあり、当会では2013年から野鳥の保護を目的に巣箱掛けを行ってきました。

2013年に8個、平成2014年に9個を子ども達とイベントを開催して鷹取山公園にかけてきました。現在17個の巣箱が掛かっています。

今年は昨年度と同様に今まで設置した巣箱の掃除と利用状況を調べます。巣箱を掛ける時期は11月～3月といわれ、出来るだけ早い時期に掛けてしまうのが良いということで昨年と同様に次の日程で行います。ぜひご参加ください。



1. 予定日 11月30日（金曜日）9時30分
雨天の場合は12月5日（水曜日）に延期します
2. 集合場所 鷹取山公園あずまや集合 12時解散
3. 用意するもの 軍手、作業できる服装
脚立などはこちらで用意します。

2. 鷹取山～神武寺まるとガイドツアー

「秋の自然観察及び浦賀道、鷹取山、神武寺の
歴史を知るツアー」

三浦半島まると博物館が主催するガイドツアーを鷹取山自然観察会が担当し、よこすかシティガイド協会の協力を得て行います。

京急田浦駅から鷹取山、神武寺に向かって秋の草花、樹木や、浦賀道、神武寺などの歴史をガイドします。ぜひ、皆様ご参加ください。

- ①日時 平成30年10月27日(土曜) 9:30~15:00
 ※雨天の場合は10月28日(日曜)
 ②集合場所 京急田浦駅 改札出口 9時30分までに集合
 ③コース 京急田浦ー鷹取山公園(昼食)ー神武寺ー神武寺駅(解散)
 ④定員 30名(先着順)
 ⑤参加費 一人500円(資料代、保険料含む)
 ⑥申し込みは本多までメールをお願いします。

虫の写真館



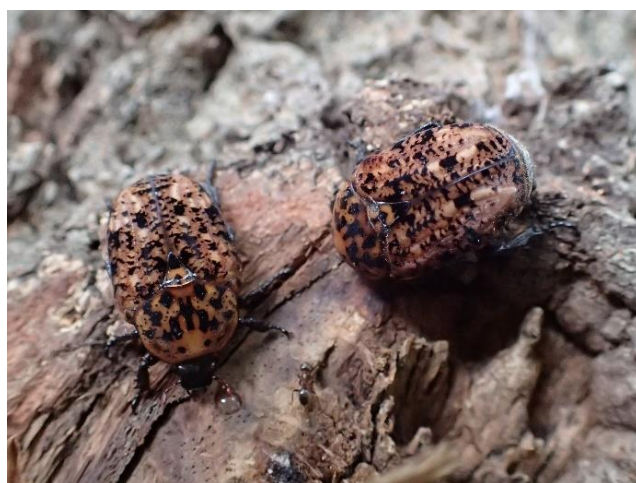
会員の方から寄せられた虫の写真を紹介します。今回は、竹之下香苗さんから「アブラゼミの羽化」の写真を8月5日に送っていただきました。朝の散歩の時に撮影されたとのことでした。

アブラゼミは5年ほどの幼虫期間を土の中で過ごした後、夜間に地上に出て安全な場所を選び、羽化を始めます。羽化を始めてから写真のような状態になるのに1時間ほど、さらに翅が固まって飛べるようになるのに3時間ほどかかり、4時間あまりは無防備なままです。抜け殻が見つけないのには理由があります。

皆さま、これからも面白い写真ををお願いします。

アカマダラハナムグリ

2018年6月12日に鷹取山でアカマダラハナムグリ(アカマダラコガネ)を1頭採集し、7月27日にはクヌギの樹液を吸っている2頭を撮影しました。アカマダラハナムグリは、猛禽類等の巣で幼虫時代を過ごすと言われる謎の多い甲虫です。成虫越冬し、寿命は数年とされています。アカマダラハナムグリは、神奈川県レッドデータブックでは準絶滅危惧ランクとされています。鷹取山には、まだまだ豊かな自然が残されていることがわかります。(三科 清高)



鷹取山自然観察会(ホームページを見て下さい)

HP: 鷹取山自然観察会(旧 鷹取山の花と樹)

<http://takatoriyama.eco.coocan.jp/>